



令和8年・・・・・2月号

ようげいほしじちかい

陽迎橋自治会だより NO. 151

# 鏡が丘 × 地域(陽迎橋)の

## 楽しく 心温かい交流が始まっています



「みんなで楽しいボッチャをやろう!」と、沖縄県立鏡が丘特別支援学校(浦添市当山3丁目・津波佳和校長)の児童・生徒の皆さんと陽迎橋の子どもたちとのボッチャ交流が行われています。昨年11月から始まり12月そして今年1月にもボッチャの試合と交流が、鏡が丘特別支援学校の体育館で行われました。これまでの試合結果は陽迎橋の1勝2敗、全国ボッチャ選抜甲子園決勝大会で素晴らしい成績を残している鏡が丘の皆さんですので陽迎橋の子どもたちはなかなか勝てそうにありませんが、お互いに真剣勝負を楽しんでいます。この交流体験は、鏡が丘そして陽迎橋の子どもたちに大きな成長の機会となることでしょう。これからも、子どもたちの交流が続くことを願っています。



おいしい幸せ オキコ オキコ株式会社

取締役 安全管理本部本部長 仲地優子様



今回もたくさんのクリスマスケーキ

ありがとうございました

2025年12月23日、「子どもたちへのプレゼントです」とたくさんのケーキをもって、オキコ株式会社の仲地さんが陽迎橋自治会室へ来所されました。子どもたちはもちろん大歓声、みんなで美味しく頂きました。ありがとうございました。仲地さんは、前年もたくさんのケーキをご寄贈頂きました。心より感謝申し上げます。

多くの皆さんの質問にお答えします

昨年(2025年)8月下旬陽迎橋自治会室は、浦添市西原5丁目・にしぼる公園近くから、現在の浦添市当山2丁目に移転しました。移転後、近隣の皆さんや国道(241号線・パークレーズコート前～浦西中学校正門前の道路など)通行の皆さんから、自治会室に出入りするたくさん子どもたちとその元気な歓声に、「ここは何」「なぜ、こんなに毎日子どもがいっぱいなのか」などのお問合せが寄せられています。確かに、連日数十名の児童・生徒が集まる自治会室は稀有な存在かもしれません。更には、連日軽食等を無料で提供する自治会も、県内では唯一かも知れません。なぜ、そのようなことが10年以上も続いているのか？ その質問にお答えします。

## なぜ陽迎橋自治会はいつも子どもでいっぱいなの？



陽迎橋の子どもの居場所「みんなおいでよ 陽迎橋」は、地域の子どものみならず（無料で）利用できる居場所です（ただし「子ども食堂」ではありません。）この居場所では子どもひとり一人の意思で、自由に遊び・勉強や食事が出来ます。遊びや勉強は、日によってはボランティアの大学生がサポートしてくれます。

このような陽迎橋自治会での子ども支援は、今から14年前の2012年（平成24年）6月の放課後子ども教室（当初は、週1回開催）からはじまりました。それが年を追うごとに週2回、3回と開催日数が増え、更には2016年（平成28年）からの浦添市てだこ未来応援事業の開始に伴い、子どもの居場所事業へ進化・発展して今日に至ります。現在では平日・週5回運営され、概ね毎回30人前後の地域の子どもの来所し居場所を利用しています。昨年度の実績では、1年間で約250人の子どもが「みんなおいでよ 陽迎橋」を利用しています。

## なぜ、陽迎橋では無料で食事が出来るの？

それは、たくさんの支援があるからです。陽迎橋の子どもの居場所「みんなおいでよ 陽迎橋」には、沖縄県や浦添市等の行政からの支援が年間をとおして行われています。また、企業・団体・個人からもたくさんの支援が年間を通して寄せられています。これらの物品やサービスを活用して毎回無料の食事（軽食等）が子どもたちに提供されているのです。

また、日常の運営も様々支援で成り立っています。自治会の運営スタッフの他に地域のたくさんの皆さんがボランティアとして運営に関わっています。

時間を作って子どもの食事をつくる方、他の企画を活用して子ども向けの食事を提供する方など多彩です。また数十名もの琉球大学や沖縄国際大学の学生ボランティアが日常運営の遊びや学習支援、そして子どもの成長にあわせた企画を組み立てています。大学生ボランティアの存在は、子どもたちの「あこがれ」となり、子どもの成長に大きな影響を与えています。



# いくつになっても 住み慣れた地域で 自分らしく 安心して暮らし続けられる 「地域」をめざして



## ご協力をお願いします

陽迎橋自治会では、地域の高齢の皆さんを訪問しています。皆さんのご協力をお願いします。この訪問では、地域の皆さまの普段の暮らしやお困りごとそしてご要望をお伺いしています。すでに約20世帯の高齢者の皆さんを訪問していますが、訪問活動をとおして様々なお困りごとやご要望が見えてきました。県内外から移住され、身近に話し相手がない方も少なくありません。

「いくつになっても、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられる」ためには、最初に「地域の皆さんを訪問する」こと、そして「つながり・お近づきになる」ことが大切なことと思います。この訪問活動をとおして、介護予防（介護が必要になるのを防ぐ取組み）や日常生活の困りごとを地域で支え合う活動など、様々な活動に活かしていきます。

この訪問活動は、地域包括支援センターゆい〜まるの皆さん、地域の民生委員や社会福祉協議会の皆さん、地域の福祉・介護事業所の皆さん、そして陽迎橋自治会と一緒に連携して取り組んでいます。